

町のALTがバトンタッチ

2011年7月26日から浦幌町の外国語指導助手（ALT）を務めてきたニコル・リー・ワグナーさん（26）＝写真右＝が7月25日に任期を終え、8月10日にアメリカに帰国しました。後任のALTには同じくアメリカ人のコレット・イザベル・イングリッシュさん（23）＝同左＝が8月3日に就任しました。



ようこそ
コレットさん

コレットさんは5月にカリフォルニア州立大学モンレー校を卒業。大学では日本の言語と文化を学んでいました。祖母が日本人ということもあり、日本には親しみを持っているようです。

浦幌の印象は「きれいな町。自然が多い」。赴任に当たり「北海道の文化、浦幌の文化を学びたい。お祭りにも参加したい」と意欲的です。

趣味はサイクリング、ハイキング、登山というアウトドア派。また、温暖なカリフォルニア出身で、雪が降る所に住むのは初めてで、スキーも楽しみたいと目を輝かせます。

食べ物ではお米と野菜が大好きと言い、美味しい野菜がたくさんとれる浦幌の収穫の秋を楽しみにしています。

子どもたちに「みんなとお友達になりたい。一緒にいい思い出を作りたい。カリフォルニアの良い所も教えてあげたい」と笑顔で話していました。

ありがとう
ニコルさん

ニコルさんは小中学校での英語指導や、運動会などの学校行事で子どもたちに親しまれてきました。

公民館での英会話チャレンジ教室には、幅広い層の町民が集いました。またバイオリン演奏を披露したり、開拓獅子舞のお囃子に参加したりと、英語だけでなく幅広い文化交流を行い、たくさんの思い出を作ってくれました。帰国後は、博物館関係の仕事に就き、考古学に取り組んでいくそうです。

7月24日の離任式では、町からの感謝状が贈られたほか、総務大臣からのジェット絆大使任命書が渡されました。

ニコルさんは浦幌で過ごした日々の中で、「一番印象に残っているのは獅子舞に参加したこと。皆さんとても優しく、おもしろかった」といいます。最後に町民の皆さんに「今までありがとうございました。浦幌の生活はとても楽しかった。また会いましょう」とメッセージを寄せました。